び繰りかえすが，これは本年の最高といえる出版物である。（前川文夫）

□樹木と塩害　今年8月22日に颱風第14号が，浜松附近に上陸した際，新幹線の碍子が塩害を受けたという放送があった。颱風の際，強い風に乗った波しぶきは，沿岸から程遠からぬ土地に達して，樹木や種々の建造物に附着し，一旦乾くことはあっても，後日潮解するに及べば，害をなすことは当然である。

昨年9月17日の颱風第24号はこの日の夜渥美半島に上陸したので，東京からは遠距離であったが，規模が大きかったが為に，東京にも多少の損害を齎した。その翌朝早く，私は新幹線の臨時列車で，国体の為に高山市に向い，23日の夜帰宅する迄，連日の快晴に恵まれた。然しその翌24日は，雨こそ降らなかったが湿っぽい日で，薄日が時々当った。25日の朝は小雨の尾瀬に行くため，早朝上野駅に行ったのに，信号機が塩害からの故障で，どの列車も発車出来ず，2時間近くおくれたので，沼田に着いたのは12時30分になってしまった。

10月になってようやく暇を得て，塩害の実態を見ることが出来た。最初に目をひいたのは，自庭内の大きなカツラの木の梢の葉がひどくいたんで形が変わり，且つ上部の枝は，可なり裸になっていたことである。次に近くにある靖国神社外園のイチョウを見ると，その南に巨大な建物のあるあたりのものは，殆んど被害が無いが，強風が直接当ったと覚しいものでは，葉がひどく傷んでいることが判った。そこで，九段坂上の住宅公団の西側で，南北に並んで植えられたイチョウを見ると，南端のものは傷みが最もひどく，その蔭になったもの程傷み方が少ないことが判った。大分日を置いて，九段坂に街路樹として植えられたソメイヨシノを検したところ，葉はちぢんで哀れな状態であった。又坂の南側に列植されたイチョウの葉は概ね萎れ且つ落葉するものが多いし，牛ケ淵にあるマテバシイの葉の先端や靖国神社外園内のモクセイも，同様な傷み方を見せた。11月に入って4日の観菊会の時にも，望遠レンズを装備したカメラを携えて，新宿御苑内のものを物色した結果，背の高いイイギリを始めとして，カエデのような落葉樹のみならず，南面して植えられたものなら，ヒヨクヒバのような木さえ，甚しく傷んでいることを確認した。

斯くする間に，神奈川県の七里ケ浜のクロマツが，塩害の為に皆枯れたという情報が入った。従って，海岸の防風林には，何を植える可きかが問題となったという。クロマツは元来暖帯の樹木であり，葉も強靱で潮風に耐えるとはいえ，高波のしぶきを孕んだ風には，流石に抗しかねたに相違ない。恐らくシイのような木でも葉は相当に傷むことであろう。この颱風の東京附近で最も激しい時間を知り度いと思ったが，気象庁には何も記録が無いという返事に，落胆を覚えた。（武田久吉）